

NEWS 絆

東北生産性本部

「米大統領選は世界を動かす～緊迫の台湾

海峡と中東情勢～」

2024年度 仙台シンポジウム 10月例会開催

2024年度 仙台シンポジウム10月例会は、外交ジャーナリスト 手嶋 龍一 氏 を講師にお迎えし、約60名の参加を得て開催いたしました

■例会（2024年10月2日開催）

講師：外交ジャーナリスト 手嶋 龍一 氏

（プロフィールなど）

慶應義塾大学経済学部を卒業後、1974年にNHKに入局し、政治部記者として官邸、外務省で外交・安全保障政策を担当。87年からワシントン特派員としてホワイトハウス・国務省・国防総省を担当。89年暮れにはマルタ島の米ソ首脳会談を取材し東西冷戦の終焉に立ち合う。翌90年には湾岸危機・戦争の取材で最前線へ。94年からハーバード大学CFIA・国際問題研究所に招聘されフェローに。その後、NHKドイツ支局長を経て、97年からワシントン支局長を8年間にわたって務める。この間、2001年の同時多発テロ事件に遭遇し11日間連続の昼夜中継を担う。

05年にNHKから独立し、「日本初のインテリジェンス小説」と評された『ウルトラ・ダラー』を発表。姉妹篇の『スギハラ・サバイバル』と共に50万部を超すベストセラーに。近著に『鳴かぬのカッコウ』、『武漢コンフィデンシャル』（小学館）。最新刊に『公安調査庁秘録』（中央公論新社）。外交・安全保障・インテリジェンスを中心に新聞・雑誌のコラムニストとしても健筆を揮う。慶應義塾大学・大学院の教授として2019年までインテリジェンス戦略論を担当、現在も一線のビジネスマン、官僚などの指導に取り組んでいる。

【ご講演要旨】

「米大統領選は世界を動かす～緊迫の台湾海峡と中東情勢～」

イスラエルがレバノンへの大規模空爆、ヒズボラ指導者のナスララ師の殺害、イエメンのフーシ派拠点への空爆により、ネタヤニフ戦争への危局が一気に高まっている。

日米はリーダーが交代する時期が訪れ、トランプ候補とハリス候補それぞれの強みと弱みを解説いただきました。9月下旬の世論調査、10月のトランプ・ハリスのテレビ討論会後の有権者による調査ではハリスが優勢となったが、今後展望について、ペンシルバニア州とノースカロライナ州をどちらが制するかが勝敗を左右するその背景を含めご説明をいただきました。

一方中国に関して、台湾問題に米国が関与するならば、武力行使も持さないと警告。また2023年に中国は先端半導体の対口供与に前向きな姿勢を示したが、今世界各国は次世代半導体開発にしのぎを削っているとのお話しをいただきました。



日・米・中・台での半導体争奪戦となっており、国内でも、半導体産業の誘致合戦となっている。台湾の半導体製造大手TSMCが熊本へ進出し、国内 8 社(トヨタ、ソニー、NTT)で新設するラピダスは、北海道・千歳に建設を決めた。

東北における PSMC とSBIの撤退(提携解消)の背景には、報道されている内容と異なる理由が情報として入っているとの非常に興味深い内容についても、お話しいただきました。

最後に参加者から事前質問が寄せられた「インテリジェンスとは何かー」についても触れ、判りやすいご説明をいただきました。

以上、大変有意義なご講演ありがとうございました。